

令和4年度文化芸術による子供育成推進事業－巡回公演事業－

ワークショップ実施計画書

制作団体名	株式会社萬狂言
公演団体名	萬狂言

内容

体育館や大教室などの広いスペースで、体験をメインにしたワークショップを行ないます。

○お話

狂言の歴史や特徴等について、分かりやすく説明します。

○基礎稽古の体験

稽古始めの挨拶(正座でお辞儀)／狂言の美しい姿勢(まっすぐな姿勢と視線)／
発声(遠くへ届く声を出す)／歩き方(摺り足)／喜怒哀楽の表現(笑う、泣く)

○本公演共演内容の稽古

小舞「兎」の謡と舞を覚え、児童生徒だけで一曲通して謡い舞えるように練習する。

タイムスケジュール(標準)

到着 開始30分前に講師とスタッフ到着

ワークショップ 90分の内容で途中10分程度の休憩あり

退校 終了後30分程度で講師とスタッフ退校

派遣者数

講師 2名

スタッフ 1名

学校における事前指導

特にありません。

令和4年度文化芸術による子供育成推進事業－巡回公演事業－

本公演実施計画書

制作団体名	株式会社萬狂言
公演団体名	萬狂言

演目
解説(狂言のおはなし)※解説の中で小舞「兎」の共演 狂言「柿山伏」 狂言「附子」 質問コーナー 【小学校のみ】体験コーナー 狂言「茸」の一部を参加児童生徒全員で体験 【中学校のみ】語「奈須与市語」※一部抜粋 を聞く

派遣者数
出演者 5名 スタッフ 2名

タイムスケジュール (標準)
到着① スタッフが開演の3時間前に到着し舞台の設営・楽屋の準備 到着② 出演者が開演の1時間前に到着し着替え等準備 共演事前練習 開演15分前にワークショップ参加児童生徒集合し、共演する謡の最終練習 公演 1時間30分内容(途中休憩10分あり) 退校 終演後1時間30分程度で着替え・片付け終了、退校

実施校への協力依頼人員
体育館が2階で階段のみの場合などは、スタッフ到着時に荷物運びのお手伝い2～3人お願いしたいです。

演目解説

解説(狂言のお話し)では、ワークショップに参加していない児童生徒でも狂言を理解しやすい工夫として、ナビゲーターと狂言師の2名で掛け合いの形にし、子どもたちの目線で狂言についてお話しします。

「柿山伏(かきやまぶし)」

山での修行を終えた山伏が、帰る途中でのどが渇いてしまったため、近くの柿の木になっている実を無断で食べてしまいます。そこへ木の持ち主がやってきたので、山伏は見つからないように木のかげへ隠れますが、大きな体がかくれるはずがありません。その様子をみた木の持ち主は、山伏をからかうこととし、様々な動物の物まねをさせます。

内容が分かりやすく、動物の物まねから、オノマトペ(擬音語・擬態語)を楽しく知ることができる作品です。

「附子(ぶす)」

主人に留守番を頼まれた召使いの太郎冠者と次郎冠者。はじめはおとなしくしていましたが、主人が猛毒だから近づくなと言いついていった「附子」が気になって仕方ありません。二人で協力して蓋を開けてみると、中に入っていたのは黒い塊。引きとめる次郎冠者の声も聞かずに、太郎冠者が一口食べてみると、それは砂糖でした。いつの間にか全部食べてしまった二人は、帰ってきた主人に怒られないよう、ある言い訳を思いつきます。

狂言の代表作の一つであり、一休さんのとんち話や『沙石集』にも類話がみられます。

台詞と動きから、狂言の面白さを十分に味わうことのできる作品です。

「奈須与市語(なすのよいちがたり)」※中学校のみ

『平家物語』の代表的な場面である、奈須与市が扇的的を射る様子を、狂言の語で見てもらいます。通常、15分ほどの演目ですが、見どころとなる弓を射る場面のみ抜粋。国語科の学習において鑑賞する機会が多い平曲(琵琶)とはまた違った魅力を味わうことができます。

児童生徒の公演への参加方法、公演に参加させるための工夫

【小学校・中学校共通】

事前ワークショップに参加した児童生徒に、狂言小舞謡の「兎」を謡ってもらいます。本公演の冒頭解説の中で、児童生徒の謡に合わせて、プロの狂言師が舞を舞います。

【小学校のみ】

本公演演目の「柿山伏」に出てくる、山伏の祈りのセリフ(ぼろんぼろん)を鑑賞の児童生徒全体で練習します。今回鑑賞する演目ではありませんが、「茸」という演目を用い、事前ワークショップに参加した児童のうち数名がキノコ役で舞台に上がり(動きの練習は事前ワークショップで行ないます)、ワークショップに参加していない児童生徒が客席からキノコに向かって山伏の祈りのセリフを言ってもらい、狂言を体験してもらいます。

児童生徒とのふれあい

最後に質問コーナーを設け、児童生徒の質問に答えたり、感想を聞くことでコミュニケーションをとります。